会　議　録

<table>
<tr><td colspan="2">会　議　名
（審議会等名）</td><td colspan="3">令和元年度第６回小金井市廃棄物減量等推進審議会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事　務　局
（担　当　課）</td><td colspan="3">小金井市ごみ対策課</td></tr>
<tr><td colspan="2">開 催 日 時</td><td colspan="3">令和元年 11 月 12 日（火）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開 催 場 所</td><td colspan="3">小金井市　中間処理場</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席者</td><td>委　　員</td><td colspan="3">＜出席者：１０名＞
岡山会長・渡辺副会長、石田委員・石原委員・星野委員・黒須委員・齋藤委員・多田委員・岸野委員・林委員

＜欠席者：５名＞
大江委員、土屋委員・山田委員・波多野委員・堀越委員</td></tr>
<tr><td>事　務　局</td><td colspan="3">小野ごみ対策課長・花野ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・大久保・高田・髙花</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴者の可否</td><td>可</td><td>傍 聴 者 数</td><td>０</td></tr>
<tr><td colspan="2">会 議 次 第</td><td colspan="3">１　開　会
⑴会議録の確認について
⑵令和２年度ごみ･リサイクルカレンダーの表紙絵選考について

２　議　題
⑴小金井市一般廃棄物処理基本計画の策定について

３　その他</td></tr>
<tr><td colspan="2">会 議 結 果</td><td colspan="3">別紙審議経過のとおり</td></tr>
<tr><td colspan="2">提 出 資 料</td><td colspan="3">別添のとおり</td></tr>
<tr><td colspan="2">そ　の　他</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

（審議過程）主な発言等

岡山会長	これより令和元年度第６回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。 本日の欠席委員について、山田委員、大江委員、土屋委員、堀越委員、波多野委員より、欠席の連絡を事前に頂いている。 次に、本日の進行及び配布資料についての確認を事務局からお願いする。
大久保減量推進係長	（配布資料確認）
岡山会長	続いて、前回、令和元年度第５回審議会の会議録について、意見・修正があれば申し出ていただきたい。
多田委員	私の発言で、３ページ目のカレンダーや分別の手引きの活用に関して、５０％程度とあるが、５０％を大きく上回る、又は５０％以上との発言だった記憶がある。
岡山会長	確認のうえ修正し、事務局にて公開手続きに入らせていただく。 次に、令和２年度ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵の選考についての説明を求める。
高田係長	（令和２年度ごみ・リサイクルカレンダーの表紙絵選考）
岡山会長	それでは、小金井市一般廃棄物処理基本計画について、前回に引き続き審議を行う。まず事務局から説明をお願いする。
小野ごみ対策課長	（配布資料説明）
岡山会長	意見・質問等はあるか。
多田委員	現行計画では「拡大生産者責任の追及」という計画項目があるが、今回の案ではなくなっている。計画項目「７」に含めたという解釈で良いか。
大久保減量推進係長	そのように解釈して頂きたい。今回の計画では、体系が細かく分かれているところは統合した。

（審議過程）主な発言等

渡辺委員	拡大生産者責任の箇所に関して、今回の計画では用語は全く出てこないのか。
大久保減量推進係長	本文で触れているとともに、取組内容「２３」に記載させていただいている。 体系表の更新が間に合っていない。諮問案が正しいものとなっているので、そちらをご覧いただきたい。
林委員	ごみゼロ推進制度の組織体制の検討というのが、取組内容として項目立てされているが、ごみゼロ化推進員への支援等の推進の中の１つの項目ということで十分な気がするがいかがか。
岡山会長	基本計画は今後５年間続くものであり、確かに違和感がある。
渡辺副会長	取組内容「４２」と「４３」については、組合との連携と構成市との連携を統合して１つの項目にしているとの解釈で良いか。
大久保減量推進係長	そのように解釈いただきたい。
岡山会長	取組内容「１９」がごみゼロ化推進員の活動支援、「２０」はごみゼロ化推進制度組織体制検討となっているが、個別に項目立てするのでなく「１９」と「２０」を統合してもよいかもしれない。体制を改善するということであれば、そちらを先にしてはどうか。
渡辺委員	今まで災害廃棄物体制についてはごみゼロ化推進員を巻き込んでいなかったが、今後はごみゼロ化推進員が関与していくということか。
大久保減量推進係長	体制の整備に含まれるとの認識である。 ごみゼロ化推進員の組織体制については、昨年度災害廃棄物処理計画を作っていく中で、地域ごとに部会を設置した方が密着した取組ができるという意見も出たので、それを参考にしている。

（審議過程）主な発言等

岡山会長	組織体制を見直していくということと、人材育成にもう少し注力するという話しは以前からあった。取組内容「４４」は災害廃棄物に特化して記載されているが、それはそれとして残したまま、ここに統合するということでよいのではないか。
林委員	事業評価することを考えると、今後５年間この項目が残ることに違和感があるので、市の方で考えていただければと思う。
岡山会長	増員することと組織作りは、１つの項目としてあってもよいかもしれない。
石原委員	取組内容「１９」について、資料によっては「推進」という文言が入っていたりいなかったりする。組織体制の強化・増員も入ってくると思うので、推進という文言は必須と考える。取組内容「１９」をなくして、「２０」に統合する考え方もあると思う。
岡山会長	説明文を一緒にし、１項目削ることは可能と考えられる。
黒須委員	ごみゼロ化推進員の制度の「制度」とはどのような意味か。
小野ごみ対策課長	条例に基づくごみゼロ化推進員制度を指している。制度の見直しを含めて、検討をすることを想定している。
大久保減量推進係長	条例の中で部会制や活動内容が謳われている。市が行っていることとして制度という表現を使っているが、市民も見ることも想定して文言の調整は行いたいと思う。人への支援が必要か、制度的な枠組みの構築が必要か、そういったことが伝わるように工夫したいと思う。
林委員	ごみゼロ化推進会議自体も認知度が低いと思う。「ごみゼロ化推進会議」のメンバーが「ごみゼロ化推進員」でもあり「ごみの相談員」でもあるはずである。そのような枠組みが分かるように計画の中で整理されていた方がよい。

（審議過程）主な発言等

岡山会長	読み手に混乱を与えない、また計画書自体をシンプルにする為に取組内容「１９」にごみゼロ化推進員の補足説明を含めてもよいかと思う。
林委員	コラム程度でもよいので、制度の説明があってもよいと思う。
小野ごみ対策課長	ごみゼロ化推進委員は町会・自治会から推薦していただいている。ごみゼロ化推進員が減っていることが課題であるなか、最近は町会・自治会に属していない方もいらっしゃるため、マンションの管理組合から推薦していただくことも考えている。 事務局内部で検討した上で改めて提示させていただければと思う。
石田委員	取組内容「３３」の非常時というのは、災害という意味で非常時なのか、災害以外の有事も非常時に含むのか。
小野ごみ対策課長	取組内容「３３」に関しては、日々のごみ処理に関してのことであり、取組内容「４２」については災害時のことである。
石田委員	非常時が何を指すのか補足説明が必要ではないか。分かりにくいように思う。
林委員	取組内容「３２」でカバーされるのではないか。取組内容「３３」を項目立てするのではなく、「３２」の最後に「非常時においても」として記載すればよい。
岡山会長	ご指摘のとおりかと思う。
石原委員	ごみを出さないライフスタイルについてだが、すぐ捨てるようなものは購入しない、社会背景として「生活サービスの向上のためにモノを作り続けるような社会はもう成り立たない」ということをきちんと記載した方がよい。 マイはしの利用促進に関しては、割りばしは端材を利用しているので資源無駄遣いにはなっていない。

（審議過程）主な発言等

渡辺副会長	資源問題の観点から見るとそうかもしれないが、ごみ減量の観点から言うと、使い捨てのはしはごみになるため、マイはしの効果が無いわけではない。
小野ごみ対策課長	マイはしに関しては、もらわないということも含めて周知している。
岡山会長	マイバッグはレジ袋、マイはしは無料で配布される割りばしやスプーンの減量という意味かと思う。使い捨ての商品をもらわないということが重要であり、説明を丁寧にしたほうがよい。飲食店での取組も重要で、市民と事業者の取組が混在しているのかもしれない。
小野ごみ対策課長	マイバッグ・マイボトル・マイはしの箇所で使い捨て商品に関しては触れている。リデュースを推進するということで言えば、行政としては旗印として掲げたい。
岡山会長	説明を丁寧に加えても良いかと思う。弁当に無料で付けられる割りばしと、容器ごと購入するペットボトルは意味が異なるので、丁寧に説明し、大きな減量効果があることを明記したらよいと思う。
林委員	取組内容「５」について、以前の基本計画では行政のリサイクル事業が謳われていたが、実際の動きとしては一旦廃止となったものの、現在は市が支援しない形で再開しているようだ。どういう状況になっているのか。
大久保減量推進係長	補助金は支出していない。負担分等を整理した上で協定を結び、協働している。
林委員	今回の計画を見ると、このあたりの表現が簡素になったと思う。最近は民間のルート活用も想定されるが、大型家具等が搬出された場合、市の関与がゼロという訳にはいかないのではないか。新たな基本計画策定までの５年間は、この計画でいくわけであるから、何か盛り込んでいただければと思う。

（審議過程）主な発言等

小野ごみ対策課長	他市ではリユース前提で回収しているところもあり、事例として参考にしているところだが、最近は、プラスチック系以外のリユースが可能な大型家具は多くは排出されていない。平成２９年度に策定した施設整備基本計画にも記載しているが、積み替え施設（二枚橋）に集約し、一定期間保管後、インターネット等で周知を行い、イベント会場に展示して引き取って頂く、もしくは販売することを考えている。近隣でも同様の事例がある。 運営事業者の提案次第ではあるが、二枚橋での販売については、品物を取りに来る方は少ないと考えている。 地域によって粗大ごみの種類が異なり、古い家がたくさんあるような地域では、イベント等で展示・販売しているところもあるが、小金井市においては以前と異なる家具が搬出されているのが実情である。それを踏まえてのリユース事業を考える。
林委員	ネットオークションやフリマアプリ等に重心がかかっているように感じる。小金井市はまだ古い家も多く、高齢の方が転居される際に大型家具粗大ごみが出てこないような地域ではないのではないか。
小野ごみ対策課長	シルバー人材センターとも意見交換を行っているが、現在リサイクル事業所で行っている事業を今後継続して行っていく予定はない。実績をみると、常時開設していても売り上げが上がっていないのが現状である。今の体制を維持していくのは難しいというのは市として判断している。
渡辺副会長	現状だと、民間団体の活用や既存のプラットフォームの活用を行うだけに見えるので、行政が積極的に関与していくような記載があった方が良いと思う。
岡山会長	お金を負担するだけでなく、別の場所で情報を公開するなども関与の一つである。実績が無いからやめるのではなく、実績を上げるために何をするのか考えるのも一案かと思う。
岸野委員	くつ・かばんのリユースは輸出して再使用されていると市報に記載すれば、有効的なリユースにつながると思う。興味を持

（審議過程）主な発言等

	ってくれれば、回収量も増えるのではないか。
岡山会長	周知・啓発とあるが、情報開示をしてどのように使われたか、という情報発信は必要かと思うので、取組内容「８」に追記してもいいと思う。
岸野委員	今回の組成調査の中で不燃ごみの中に体温計やボタン・リチウムイオン電池の混入があった。可燃ごみの中にも含まれているのではないかと推察される。 見える化を進め、イベント等で知る機会を作ったらどうかと思う。
岡山会長	取組内容「１２」に関しては、イベント・広告を利用する。リサイクルできるものに限らず、危険物、不適物等の正しい分別についても周知することが重要である。
林委員	取組内容「１１」に関して、文言は堆肥化推進を念頭に置いているように見える。 ３市市民会議の中で、可燃ごみを極力減らす、ゼロにする試みに向けて、今後１０年間では可燃ごみの半減が目標である。バイオマス・ガス化等に関してゼロから考えていくような話題もある。生ごみ堆肥化以外の施策については検討できないか。
渡辺副会長	堆肥化の中でも乾燥生ごみを前提としている表現になっていると思う。堆肥化はこれだけではないので、他の手段を模索していくことも必要なので、乾燥生ごみに限るような表現はなくした方が良い。
林委員	これまでの慣性力が働いたままになっているので、移行していく可能性があることも想定して表現は工夫してもいいのではないか。
岡山会長	移行するかどうかも含めて、文章表現が「調査研究を行っていきます。」で終了している。生ごみ乾燥の増加を見据えてとあるので、この前提だけを外すので解決できるのではないか。

（審議過程）主な発言等

小野ごみ対策課長	発酵堆肥化促進資材はぼかしのことである。自家処理用ぼかし肥として、市が購入して市民の方にお配りしている。記載内容は、乾燥生ごみに限定しているわけではない。堆肥化は生ごみ減量として継続している事業であり、ここは頂いた意見を参考に表現は再考した上で提示したい。
渡辺副会長	乾燥型を推進していることに懸念がある。５年前は焼却も全て他市に依存しながら可燃ごみ削減に邁進してきた。乾燥型はエネルギーを消費する。二酸化炭素排出面からは、やらない方がよいとの考え方もある。新処理施設稼働させ、温暖化も考慮すると、継続はするが、乾燥生ごみに限定するのではなく、別の方法も検討した方がよい。
岡山会長	留意点として、堆肥・バイオマス化であっても、消化液を使用できるかどうかが鍵となる。使用でき得るものがあるかどうかから議論を始めるべきであり、リサイクルの方法から始めるべきではない。小金井市は農地があるので、例えば、バイオマス施設で発電を行い、その消化液を全量畑に散布する。その畑でできた野菜を隣のレストランで調理して地産地消を行う、といった循環が可能と考える。しかしそれ以前に取組内容「１６」を「見える化」としたのは、小金井市の生ごみからできた堆肥で育てた野菜を給食に提供することで、市内で循環ルート構築することもできるのではないか。
石原委員	取組内容「１５」について文言を「または」ではなく「並びに」と並列にしたほうがよい。啓発が必要と考えられる転入者はどの程度いるのか。外国からの転入者に対しての記載も入れるべきである。
小野ごみ対策課長	転入者は毎年７，０００～８，０００人程度である。過去と比べ学生も少ない。 海外からの転入者対応に関しても記載するようにする。
岸野委員	廃食油についてはどうなっているのか。

（審議過程）主な発言等

小野ごみ対策課長	小委員会として検討いただいた内容は市としても認識している。他の事例では事業者から排出されるものも回収対象としており、市として踏み切るかどうか、まだ課題もあるとの認識であり、イベント回収等も含め、具体的なものは検討中である。
林委員	そのようなアクションプランはどこに出てくるのか。
岡山会長	計画項目「９」にあたるのではないか。収集からルートまで全て考えた上で取組が必要であるため、記載の仕方が難しいと考える。
林委員	市民からの陳情ではなく、審議会の小委員会で意見を提出しているので、必ず実施すべきである。イベントでの回収を約束する程度は記載してもらわないと困る。
大久保減量推進係長	組成調査の結果を見ても廃食油はほとんど出てきていない。行政として実施しなければいけないことに優先順位をつけたときに、新可燃ごみ処理施設が稼働することもあり、分別徹底に注力する事の方が順位は高く、必然的に順位が下がってしまっているのが現状である。
林委員	小委員会で検討して報告書にまとめた経緯があるのであるから、それなりの配慮をすべきである。
事務局	検討は行っている。イベント回収をしている他市の事例では、集まったのは２０～５０リットル程度とのことであった。小金井市がイベントした場合に集まる量を５０リットルとしても、有価物として１リットル当たり１円、２円で業者に買取ってもらうと数十～数百円ということになる。いくつかの業者にもヒアリングを行ったが、廃油回収として市から業者に処理料を支払うのでなければ、採算が取れないため難しいとのことであった。また、他市でイベント回収をしている業者に確認したところ、有価として市から買い取りはしているが、同時に廃油についての啓発を実施しており、回収するだけでは大きな赤字になるだけだとのことであった。 これらを踏まえると、イベント回収であれば啓発効果はある

（審議過程）主な発言等

	かもしれないが、現時点では新たな事業として予算措置を行うことは、財政上難しいという状況である。
小野ごみ対策課長	イベント回収等も検討しているが、難しいところが現状であり、基本計画に記載するだけの材料が揃っていないことをご理解いただきたい。
岡山会長	小委員会でそれなりに労力をかけたところではあるので、可能であれば施策化されることが理想的だが、やりたいこととできることは違うということも理解できる。 新たな分別品目、未活用の資源の有効利用に関する研究を今後続けていくことは記載しておいて欲しい。
林委員	資源品目に対する発想が固まってしまっている。新たな資源品目もう少し広げていく可能性を持たせていかなければ、今後の審議会での検討に繋がらない。
石田委員	取組内容「１」について、食品ロスに関しては重く受け止めていると推察されるが、効果検証・評価はどのように考えているか。食品ロス削減推進計画に関して、誰が立案して推進するのか、現状決まっていれば教えていただきたい。
小野ごみ対策課長	食品ロス削減推進計画は各自治体とも策定を進めていくことになると思う。しかし、計画の中に何を記載し何を盛り込むかは規定されておらず、国等からも今後示される予定であるため、国等の動きを見ながら進めていくことになると思う。 食品ロスについては、家庭から出るごみが主役だったが、新可燃ごみ処理施設の稼動に伴い、家庭系だけでなく事業系もターゲットにおいている。具体的な評価に関しては、できていないが、国をあげて取り組まなければならないことであるため、あえて一番初めにしている。食品ロスの場合は、フードドライブごみとして排出されるわけではないので、効果があったか無かったかについては検証できていないところである。
石田委員	組成分析などをすれば見えるということもあるが、子ども食堂に使われる場合もあることを考えると、本当の意味での食品ロスは検証のしようがない。そもそも、食品ロスは廃棄物の管

（審議過程）主な発言等

	理の範疇なのか区別がつかない所ではある。
小野ごみ対策課長	フードドライブ自体、ごみ対策課がやるべきことなのかということを課題として認識しているので、社会福祉協議会と調整を図っている。 評価としては難しいところだが、あえてあげるとすれば、ごみとして排出されないのでごみと認識できない、となる。
岡山会長	今回の組成調査は家庭から出てくるごみを対象にした。賞味期限切れ食品や可食部の廃棄は、他事例と比べて極端に少ない。取り組むこととしてはフードドライブしかなく、効果検証も難しい。食品ロス推進計画は家庭ごみを対象としているが、事業系ごみもターゲットにしていくのであれば、飲食店や小売店から出てくるものについては食品リサイクル法適用物となるため、それを強化していくことになるかと思う。
石田委員	大きな事業所は自前で処理するのは当たり前だが、個人商店は家庭と同様と考え、ここに含めるのか。
小野ごみ対策課長	事業系ごみは事業者責任に基づき処理されるのが原則と考える。取組内容「２５」に該当する。
林委員	食品ロス削減推進計画は基本的にフードドライブ中心と捉えてよいか。
岡山会長	そうではない。家庭から出る食品ロスを半減させるだけのものであり、行政ができることは普及啓発とフードドライブしかないのが現状である。
林委員	個々に記載されているのは食べきりのことである。フードドライブも念頭に置くのであれば、食べ残しを中心とした食品ロス削減推進と記載内容の見直しが必要なのではないか。フードドライブはどこに紐づくのか。
岡山会長	発生抑制になるかと思う。前半は飲食店の事業形態にシフトしているので、切り離した方がいいかもしれない。食べつくす、

（審議過程）主な発言等

石原委員	ドギーバックは飲食店で取り組むべきものの一つであり、家庭系のものと事業系のものは異なるので、整理が必要かと思う。 ３市の共同処理が始まるが、人口減少が進むことも念頭に、今後の検討を進めているのか。
花野課長	人口推計を含んだ検討を行う予定である。３市で協力して進めていかなければならない。
石田委員	行政が違っていても、個々人がやることは変わらない。目標を徹底していくことが重要であると考える。
多田委員	前計画の「未活用資源の有効使用方策の調査研究」が項目にないが、次期１０年ではやらないということか。それとも、それぞれで行うということか。
小野ごみ対策課長	各項目において引き続き調査研究を行うということである。
多田委員	キャンペーンやイベントの項目がなく、まとめられており、重要性が下がっているように感じる。
小野ごみ対策課長	未活用資源と同様、項目として挙げていないだけであり、総括的な表現として整理させていただいている。キャンペーンやイベントに関しては、様々な施策の中で力を入れてやっていかないといけないことに変わりはない。
岡山会長	では最後に、事務局から何か報告があればお願いしたい。
大久保減量推進係長	素案に関しては、事務局にて修正の上、次回提示させていただく。本日協議できなかった部分に関しても、お気づきの点はメール等でもいただければと思う。 次回の審議会は１２月１８日（水曜日）１５時から中間処理場での開催を予定しており、後日、改めてご連絡させていただく。
岡山会長	それでは、以上を持って審議会を終了する。

（審議過程）主な発言等